

ひとはくの生物系収蔵庫にはたくさんの標本が収められています。生物の標本の本質は、代表的なものだけを選んで集める少数精鋭主義ではなく、「多々益々辯ず（たたまますべんず）」、多ければ多いほど良いというところにあります。重複を厭わず同じものをたくさん集めるのは一見無駄なようにも思えますが、なぜ大切なのでしょう。

それは数が集まらなければ見えてこない現象があるからです。全ての生物は進化します、進化とは形や性質が長い時間をかけて変化することです。また生き物はすべて受精卵としてこの世に生を受けてからゆっくりと成長し、そして老化していきます。つまりすべての生物は、種としても個体としても、時間の経過とともに形や性質が移り変わります。

同じ生物でも生活する場所によって色や形が少しずつ違うこともごく普通のできごとです。そういった違いの全貌を一度に観察するのは至難の業ですが、いろいろな場所や時期に採集された数多くの標本を机の上に並べてみれば、緯度や経度、標高といった空間の広がりだけでなく、時間の流れさえも超越して比較検討することができます。

このように、まさに4次元の世界を容易に実現させるのが標本であり、集められたたくさんの標本を利用しやすく整理し、そして大切に保管し将来に伝えるのが収蔵庫の役割なのです。

秋山 弘之（自然・環境評価研究部）



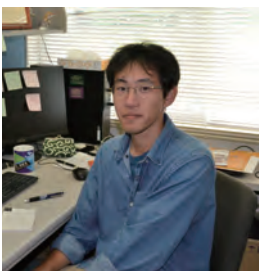
写真1
新種として記載されたコケ植物の標本の例です。整った形に整理して保管される前の状態です。新種を報告する上で大切なのは、その元となった証拠標本をしっかりと保管し後世に確実に伝えることです。



写真2
厳しくて楽しい野外調査によってたくさんの標本が収集蓄積され、それが博物館の大切な資料となります。

トピックス

新入館員 自己紹介



恐竜化石総合ディレクター
田中 公教

丹波地域の化石に関わるボランティア活動の支援や人材育成、展示、広報などを行っています。また、恐竜時代に出現した地球最古の海鳥について研究しています。

ボランティアさんたちが楽しく活動できる場を作りたいと思いますので、どうぞ宜しくお願い致します。



総務課
渡邊 茉央

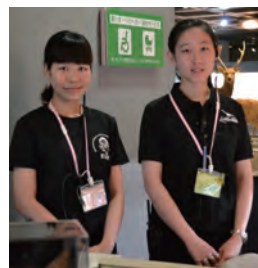
総務課の渡邊です。三田市で育ったので、「ひとはく」には小さい頃から遊びに来ていました。今も時々、館内を探検して楽しんでいます！みなさまにわくわくしていただける館になるよう、努めてまいります。



恐竜技師チーム
代表：和田 和美

ひとはく恐竜ラボにて、化石剖出作業を7名の技師で行っています。恐竜ラボでは作業風景をご紹介するだけでなく、手作りで開発された剖出道具の展示や化石発掘体験セミナーなどを行っています。

皆さまのお越しを、技師一同お待ちしております！



フロアスタッフ
大西・藤本

今年度からフロアスタッフに加わりました。わたしたちは、ひとはくで接客部門を担当しています。「ひとはくを楽しもう」を合言葉に、だれもが楽しめるプログラムを準備して、笑顔でみなさまの来館をお待ちしています！

ひとはく通信

ハーモニー

102

Sep. 2018

特集

ひよつご五国の自然展

溪流沿いのシオジ林 (宍粟市)